



2026年8月31日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ラ ッ ク ラ ン ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 笠 原 弘 和  
(コード番号：9612 東証プライム)  
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 坂 本 寛 樹  
兼コーポレート統括本部長  
(TEL：03-3377-9331 (代表))

### 2026年12月期 第2四半期 決算説明会での配布資料の公表について

当社は、2026年8月29日に開催しました「2026年12月期 第2四半期 決算説明会」での配布資料について公表いたしますので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 当決算説明会での配布資料を適時開示にて公表することとした理由

当社は、2024年12月期 決算説明会までは決算説明会終了の一定期間後に、当社ウェブサイトにて配布資料及び当日の様子の動画を掲載しておりました。

しかしながら、コーポレートガバナンス・コードの基本原則「適切な情報開示と透明性の確保」と「株主との対話」に則り、IR活動に更に積極的に取り組み、投資判断の情報を投資家の皆様へいち早くお届けするべく、決算説明会開催日の翌営業日に適時開示にて配布資料を公表することといたしました。

なお、録画配信については、個人情報保護等の観点から編集の時間を要するため、当日の様子の録画については、配布資料の公表日の約2週間後を目途として当社ウェブサイトに掲載いたします。

#### 2. 当決算説明会における配布資料の内容

添付をご覧ください。

#### 3. その他

当決算説明会の様子をご覧いただけるよう、2026年9月中旬以降に当社ウェブサイト内の「IR資料」ページにて録画を配信する予定でございます。( <https://www.luckland.co.jp/ir/material.html> )

(お問い合わせ先)

株式会社ラックランド コーポレート統括本部経営企画部経営企画課

<https://www.luckland.co.jp/contact/index.html>

以 上



# 2026年12月期第2四半期

## 決算説明会

2026年8月29日（土）



株式会社 **ラックランド** 証券コード：9612

# 目次

**1** 会社概要 ..... P2

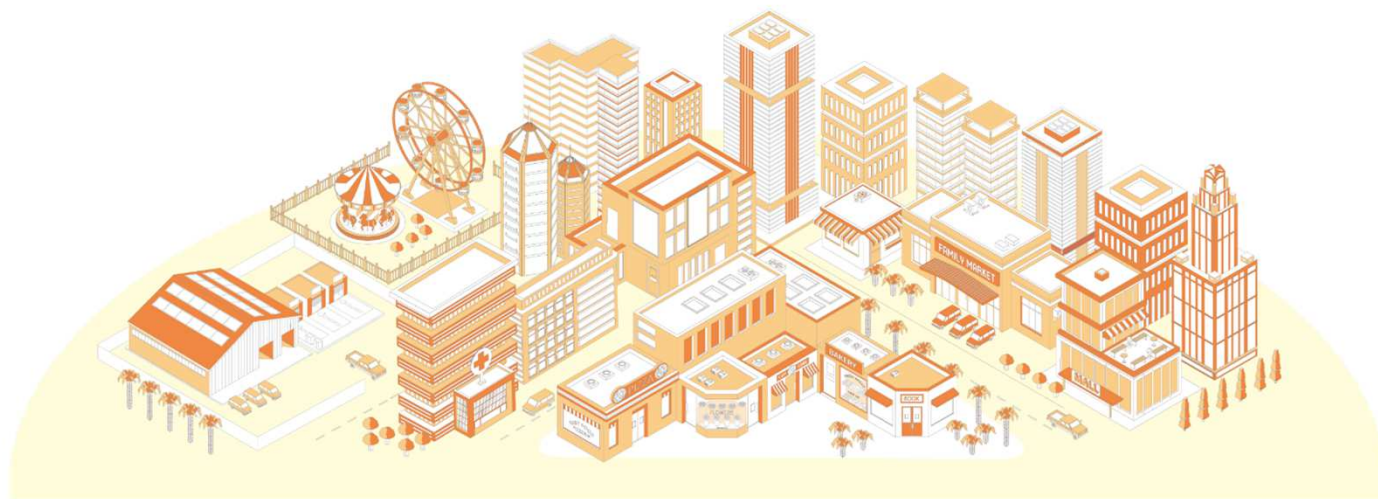
**2** 2026年12月期第2四半期  
連結決算ハイライト ..... P9

**3** 中期経営計画の概要と  
2026年12月期第2四半期における進捗 .. P16

**4** 制作事例 ..... P28

1

# 会社概要



# 1. 会社概要

LUCKLAND CO., LTD.

|                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| 社 名              | 株式会社 ラックランド                       |
| 本 社              | 〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目18番20号      |
| 代 表 者            | 代表取締役社長 笠原 弘和                     |
| 創 立              | 1970年 5月15日                       |
| 資 本 金            | 4,870百万円（2026年6月30日現在）            |
| 上 場 証 券<br>取 引 所 | 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：9612）        |
| 従業員数             | 1,013名（連結 1,372名）（2026年6月30日現在）   |
| 売 上 高            | 56,574百万円（連結 2025年12月期）           |
| 事業内容             | 商空間を対象とした設備・建築・内装の企画・設計・施工・メンテナンス |

- 店舗施設の制作事業  
立地調査、ビル設備調査、企画、設計、施工
- 商業施設の制作事業  
建築設備、内装監理業務、大店立地法調整、設備設計、施工
- 食品工場・物流倉庫の制作事業
- メンテナンス事業
- 環境領域事業
- 建築事業、建築設備事業、冷凍冷蔵設備事業（エンジニアリング事業）



官 公 庁 の  
許認可登録

国土交通大臣許可（特-6）（般-6）第10470号

建築工事業／内装仕上工事業／熱絶縁工事業／電気工事業／  
管工事業／大工工事業／とび・土工事業／防水工事業／鋼  
構造物工事業／板金工事業／塗装工事業／建具工事業／石工  
事業解体工事業／消防施設工事業／左官工事業／タイル・れ  
んが・ブロック工事業／鉄筋工事業／土木工事業 等

一級建築士事務所 東京都知事登録 第40172号  
宮城県知事登録 第24010106号

宅地建物取引業 国土交通大臣(2)第9568号

主なグループ会社（国 内）

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 株式会社ケーキリエイト | 光立興業株式会社         |
| ニイクラ電工株式会社  | 大阪エアコン株式会社       |
| 光電機産業株式会社   | オーエイテクノ株式会社      |
| 株式会社木戸設備工業  | 日本ピー・アイ株式会社      |
| 協和電設株式会社    | 墨東建材工業株式会社       |
| 静清装備株式会社    | 株式会社環境装備エヌ・エス・イー |

主なグループ会社（海 外）

|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| シンガポール | LUCKLAND ASIA PTE. LTD.            |
| マレーシア  | LUCKLAND MALAYSIA SDN. BHD.        |
| カンボジア  | LUCKLAND (CAMBODIA) CO., LTD.      |
| タイ     | LUCKLAND (THAILAND) CO., LTD.      |
| ベトナム   | LUCKLAND VIET NAM CO., LTD.        |
| 〃      | VIET BOKUTO CO., LTD.              |
| インドネシア | PT LUCKLAND CONSTRUCTION INDONESIA |
| 台湾     | 台灣樂地建築室內裝修股份有限公司                   |

# Total Solution



### 店舗施設 商業施設 の制作事業

商業施設の建築設備や  
個別店舗の設計・施工  
を行う



### 食品工場 物流倉庫 の制作事業

冷凍・冷蔵技術や  
HACCPに対応した食品  
工場と物流倉庫の設  
計・施工を行う



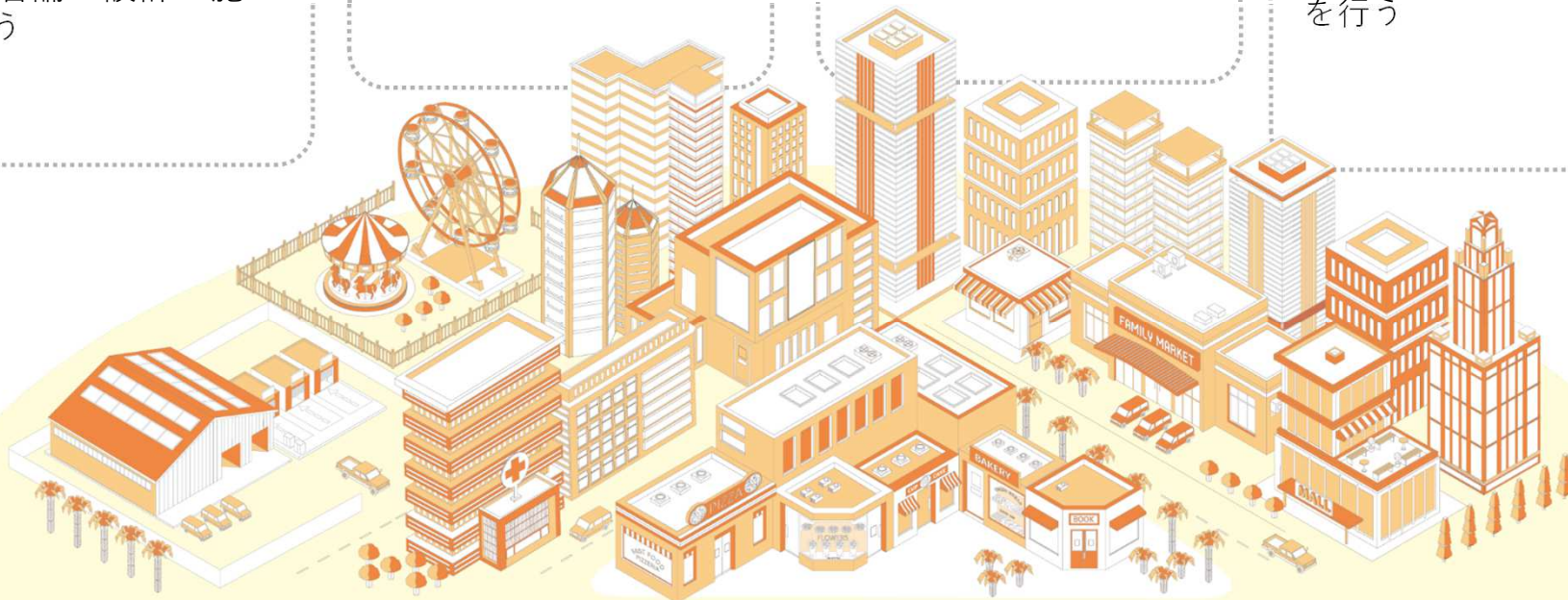
### メンテナンス 事業

各種施設における内  
装・設備の修繕や保守  
を行う



### 建築事業

新築のほか、耐震補強、  
用途変更（コンバー  
ジョン）を含む建物全  
体のリニューアル工事  
を行う



1970年 5月 ● 東京都台東区に**ラックランド工業株式会社**を設立

1973年 2月 ● 東京都新宿区に本社を移転し、資本金を14百万円に増資  
スーパーマーケットの冷凍設備工事・厨房設備工事の受注を開始

1975年 7月 ● 特定建設業の東京都知事許可を取得

1983年 7月 ● 一般建設業、特定建設業の建設大臣許可を取得

1992年 12月 ● 商号を**株式会社ラックランド**に変更

1995年 1月 ● 株式を店頭公開し、資本調達力を向上

1995年 8月 ● 一級建築士事務所登録を行い、設計・施工体制を強化

2003年 11月 ● 大阪府吹田市に**大阪支店**を開設し、  
西日本エリアへの展開を開始

2005年 3月 ● 東京証券取引所市場第二部に上場



初荷トラックの出発を祝う



1995年 株式を店頭公開

- 2012年 12月 ● 仙台営業所を**東北支店**に改称し、東北エリアの営業体制を確立
- 2013年 1月 ● 当社グループ初の海外拠点として、シンガポールに海外子会社  
**LUCKLAND ASIA PTE. LTD.**を設立し、海外展開を本格化
- 2013年 8月 ● 当社グループ初のM&Aにより、**ニクラ電工株式会社**を子会社化し、  
事業領域の拡大を図る
- 2015年 10月 ● 東京証券取引所市場第一部に上場
- 2022年 4月 ● 東京証券取引所プライム市場へ移行
- 2023年 3月 ● 東北支店を**東日本支店**に改称し、東北全域への  
営業体制を強化
- 2024年 5月 ● 大阪支店を**西日本支店**に改称し、西日本エリアの営業体制を強化
- 2026年 2月 ● 株式会社ラックランド（連結）中期経営計画  
(2026年12月期～2028年12月期)の策定



2022年 プライム市場へ移行

～ 経営理念～

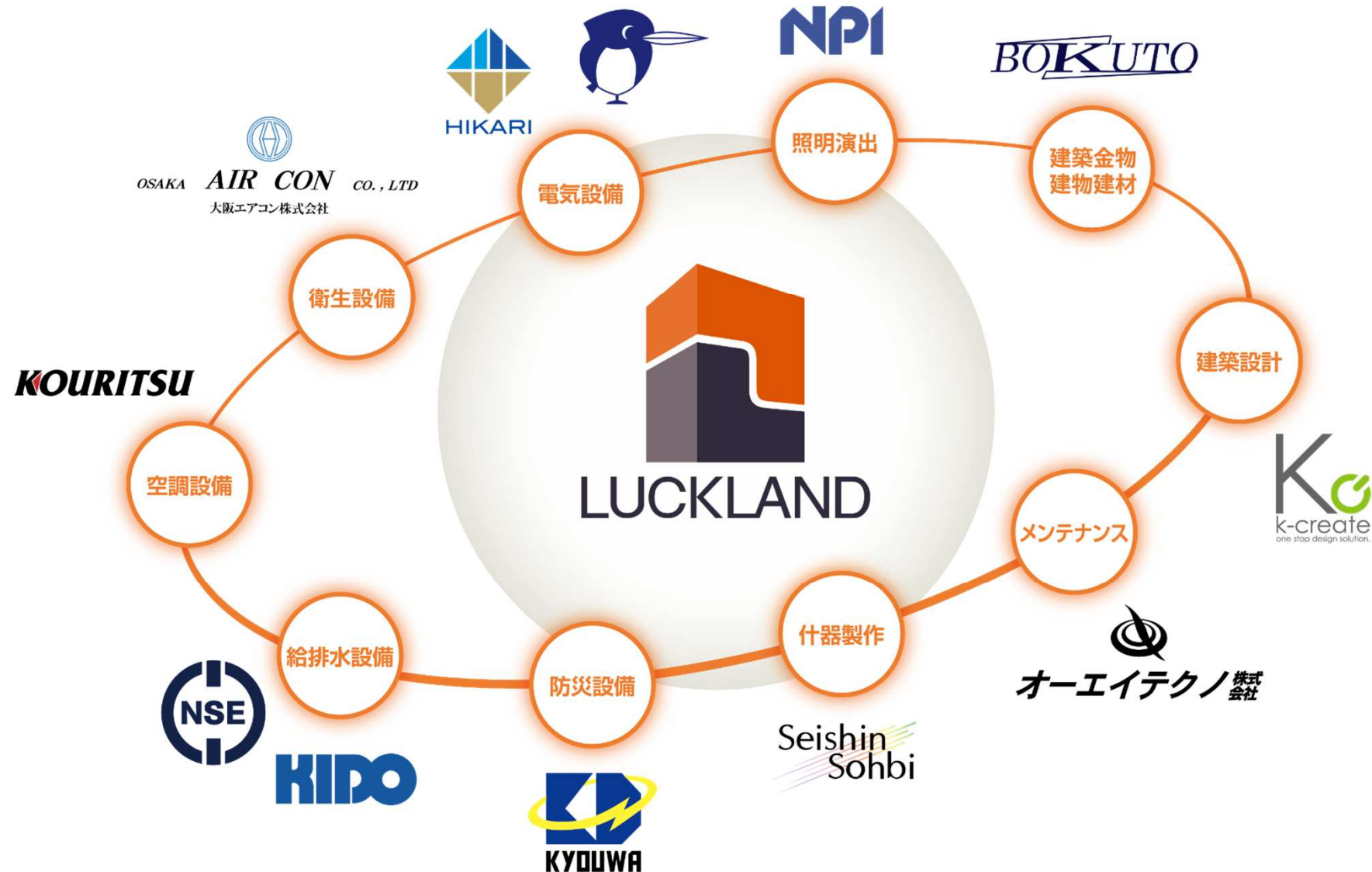
様々な人々の期待に応える

～ 企業ミッション～

商空間創りを通じ、皆の笑顔を作りだすこと

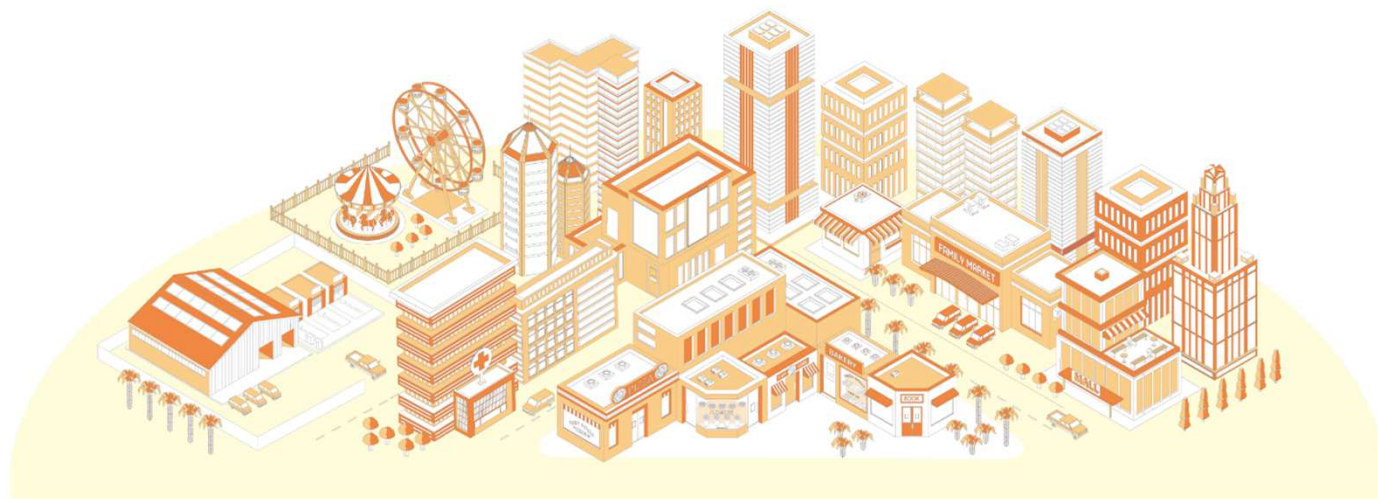


# 「様々な人々の期待に応える」ために



2

# 2026年12月期第2四半期 連結決算ハイライト



## 2-1. 連結業績（2026年12月期第2四半期）

LUCKLAND CO., LTD.

上半期については、中東情勢の影響を受け、前年同期比、期初計画比ともに減収となり、営業利益および経常利益についても減少した。

（百万円）

| 項目                  | 2026年12月期<br>第2四半期<br>（実績） | 2026年12月期<br>第2四半期<br>（計画） | 期初計画比較  |        | 2025年12月期<br>第2四半期<br>（実績） | 前年同期比較  |        |
|---------------------|----------------------------|----------------------------|---------|--------|----------------------------|---------|--------|
|                     |                            |                            | 計画差異    | 計画比    |                            | 増減額     | 増減率    |
| 売上高                 | 22,657                     | 25,317                     | △2,660  | 89.4%  | 25,882                     | △3,225  | △12.5% |
| 営業利益                | 823                        | 1,164                      | △340    | 70.7%  | 1,637                      | △814    | △49.7% |
| 営業利益率               | 3.6%                       | 4.5%                       | △0.9 pt | —      | 6.3%                       | △2.7 pt | —      |
| 経常利益                | 879                        | 1,204                      | △324    | 73.0%  | 1,586                      | △707    | △44.5% |
| 親会社株主に帰属<br>する中間純利益 | 665                        | 609                        | 56      | 109.4% | 961                        | △296    | △30.7% |
| 中間純利益率              | 2.9%                       | 2.4%                       | +0.5pt  | —      | 3.7%                       | △0.8 pt | —      |

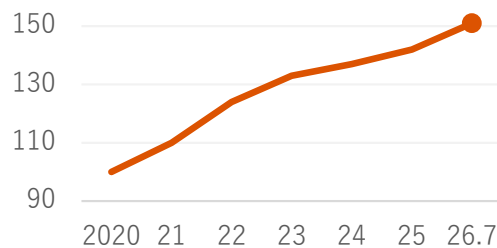
- ・親会社株主に帰属する中間純利益は、税効果会計の影響等により期初計画を上回りました。
- ・期初計画は「2025年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて2026年2月13日に公表した2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績予想

## 2-2. 第2四半期業績に影響した外部環境要因

昨年以前から建設コストや金利が上昇している中で、中東情勢の緊迫化により、上半期の業績進捗が遅れる結果となった。

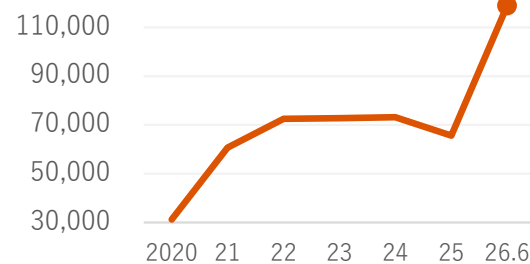
外部環境要因（資材・原材料・外国為替レート・金利・発注動向）

建設資材物価指数 建設総合  
（建設コストの高止まり）



出典：一般財団法人 建設物価調査会（2020=100）

国産ナフサ基準価格  
（内装・樹脂系資材価格の高騰）



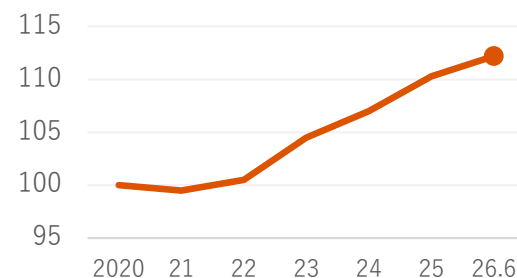
出典：財務省「貿易統計」より算出（円/KL）

ドル円為替レート  
（円安→輸入資材の上昇）



出典：日本銀行 時系列統計データより（円/ドル）

消費者物価指数 コアCPI  
（物価の高止まり）



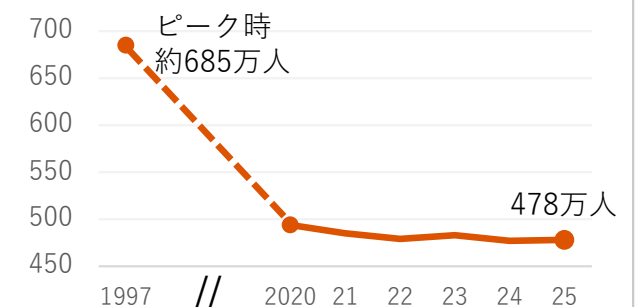
出典：総務省統計局「消費者物価指数」（2020=100）

10年国債金利の推移  
（顧客の設備投資判断が慎重化）



出典：財務省「国債金利情報」を基に当社作成（%）

建設業就業者数の推移  
（施工力・人手不足の動向）



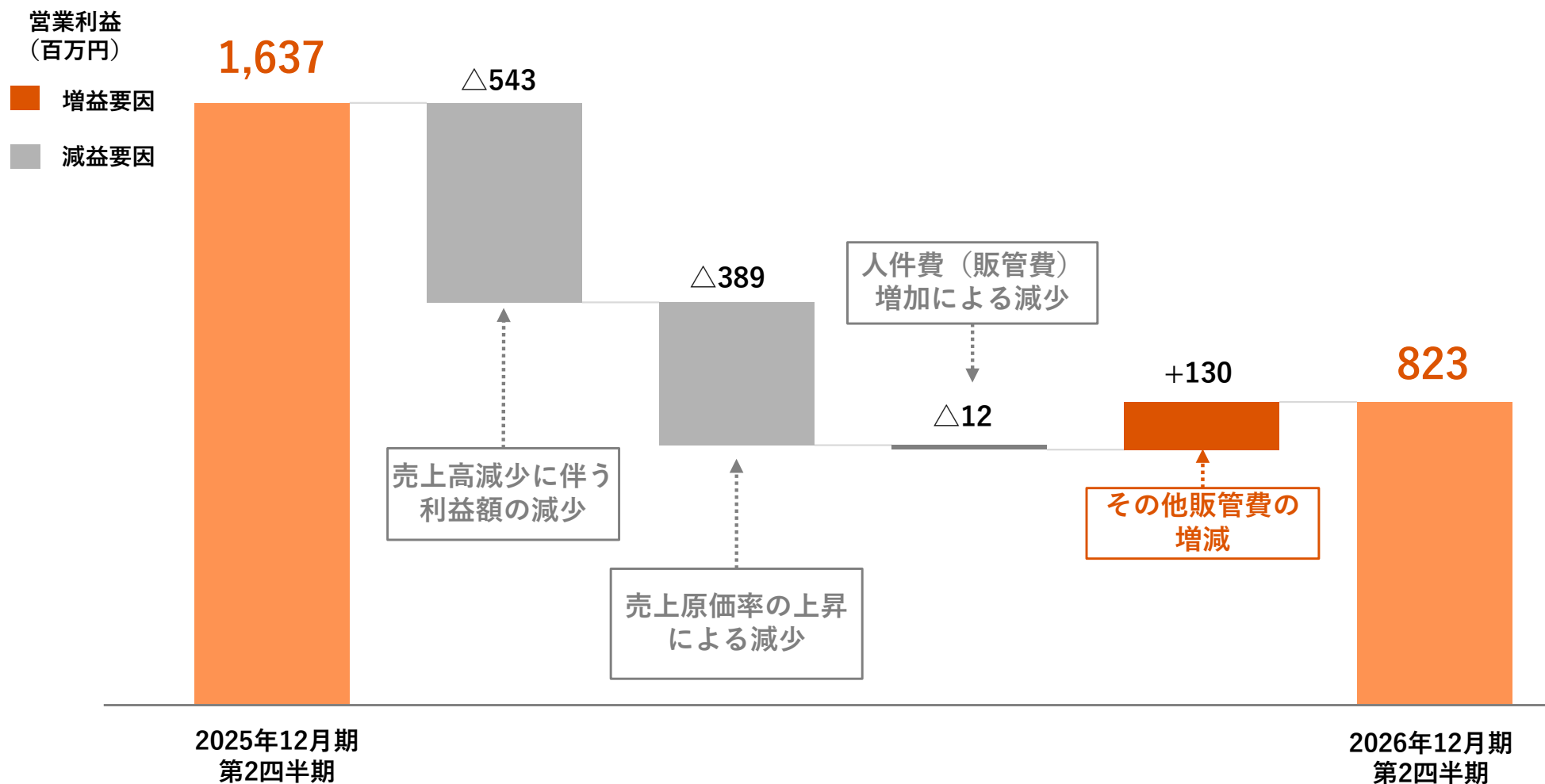
出典：「総務省労働力調査」を基に当社作成

※1998年～2019年は表示を省略。（万人）

## 2-3. 連結営業利益 前年同期比の差額要因（2026年12月期第2四半期）

LUCKLAND CO., LTD.

売上高が前年同期比で減少したことに伴い、売上原価及び販管費に係る固定費負担を吸収できず、営業利益が減少した。

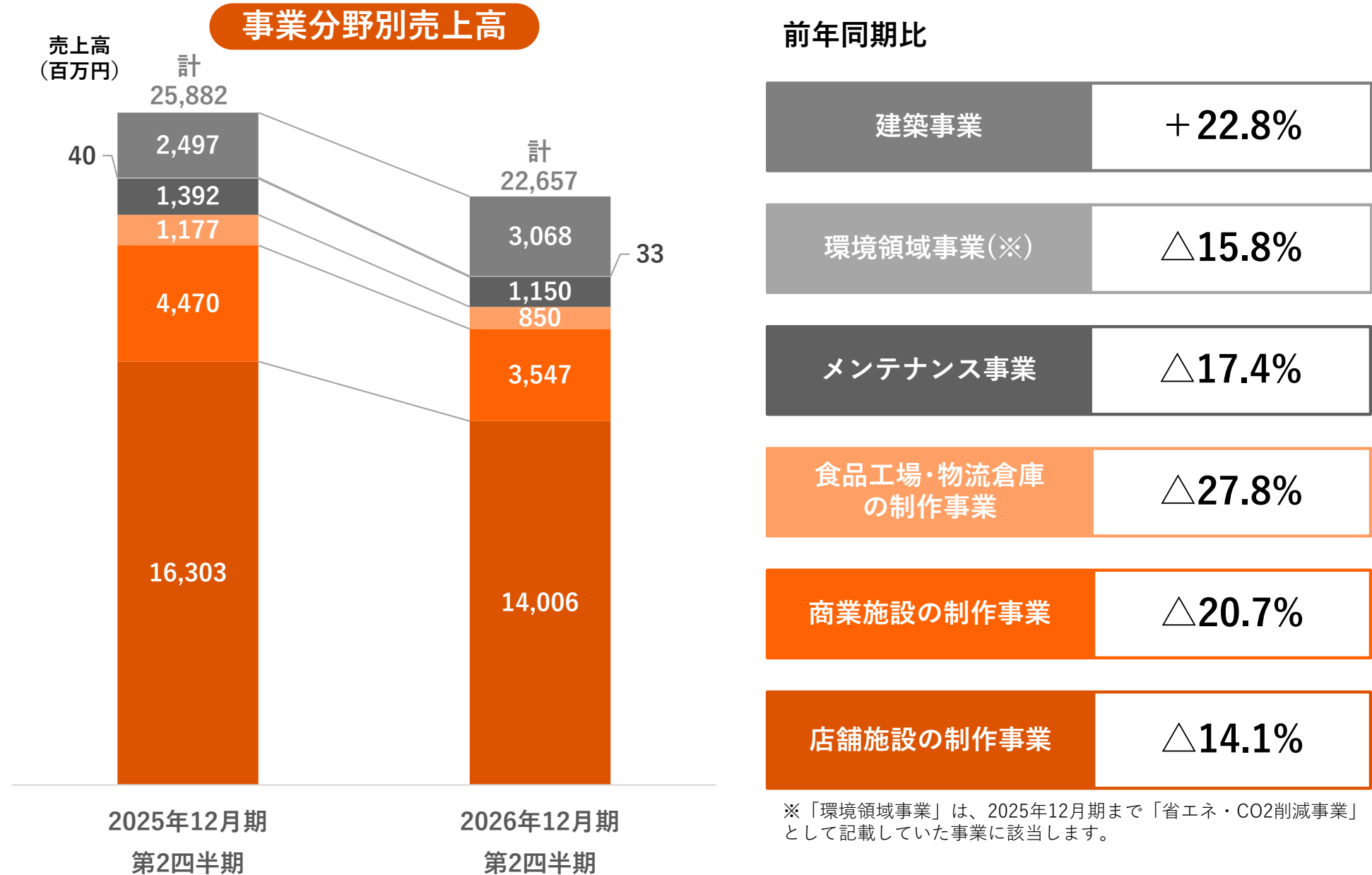


・親会社株主に帰属する中間純利益は、税効果会計の影響等により期初計画を上回りました。

## 2-4. 事業分野別連結売上高（2026年12月期第2四半期）

LUCKLAND CO., LTD.

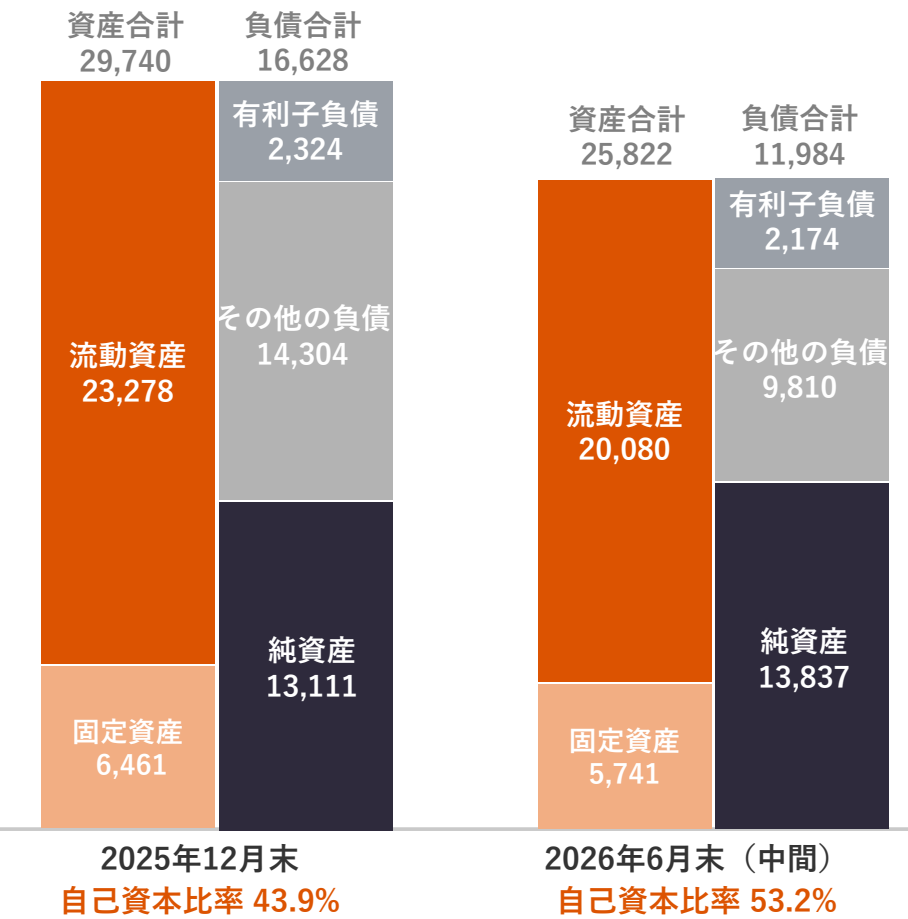
建築事業は売上計上物件が集中し、前年同期比で増収となったものの、建築事業以外の売上高は中東情勢等の影響で減収となった。



親会社株主に帰属する中間純利益の計上と譲渡制限付株式の発行に伴う新株式の発行により、純資産はやや増加した。

(百万円)

貸借対照表の構成（連結・百万円）



流動資産 固定資産 流動負債 固定負債 純資産

| 項目       | 前連結会計年度<br>(2025年12月31日) | 当中間連結会計期間<br>(2026年6月30日) | 増減     |
|----------|--------------------------|---------------------------|--------|
| 流動資産     | 23,278                   | 20,080                    | △3,198 |
| うち現金及び預金 | 11,521                   | 11,225                    | △296   |
| 固定資産     | 6,461                    | 5,741                     | △720   |
| 資産合計     | 29,740                   | 25,822                    | △3,918 |
| 流動負債     | 15,644                   | 11,030                    | △4,614 |
| 固定負債     | 984                      | 954                       | △29    |
| 負債合計     | 16,628                   | 11,984                    | △4,644 |
| 純資産      | 13,111                   | 13,837                    | +725   |
| うち自己資本   | 13,047                   | 13,738                    | +690   |
| 有利子負債    | 2,324                    | 2,174                     | △150   |
| 自己資本比率   | 43.9%                    | 53.2%                     | +9.3pt |

売上高、営業利益および経常利益の期初連結業績予想に対する進捗は想定を下回っているが、先送りとなった案件や新規案件の積み上がり状況を勘案し、通期連結業績予想を維持する。（百万円）

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 売上高                 | 58,000 |
| 営業利益                | 4,176  |
| 経常利益                | 4,262  |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 | 2,579  |

- ・ 上記は2026年2月13日付の適時開示「2025年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」により公表した連結業績予想数値

# 3

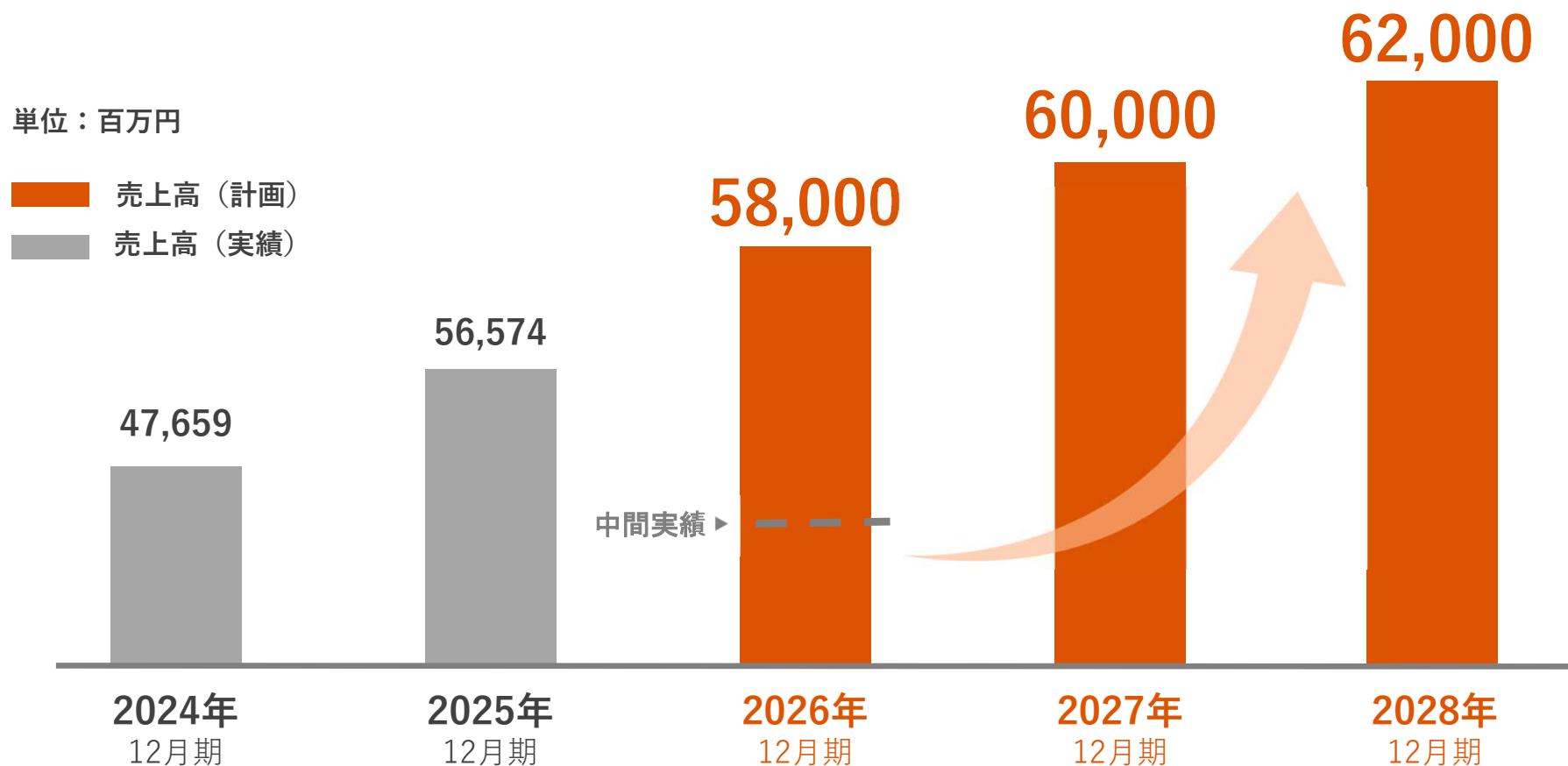
## 中期経営計画の概要と2026年第2四半期における進捗



### 3-1. 中期経営計画（連結）における数値目標

LUCKLAND CO., LTD.

売上成長と収益性向上を両輪に、資本効率の改善と株主還元の段階的な拡充を通じ、持続的な企業価値向上を目指す。



営業利益率

安定的に**6.5%**以上

ROE

**8.0%**以上

配当性向

2026年

**20%**

2027年

**30%**

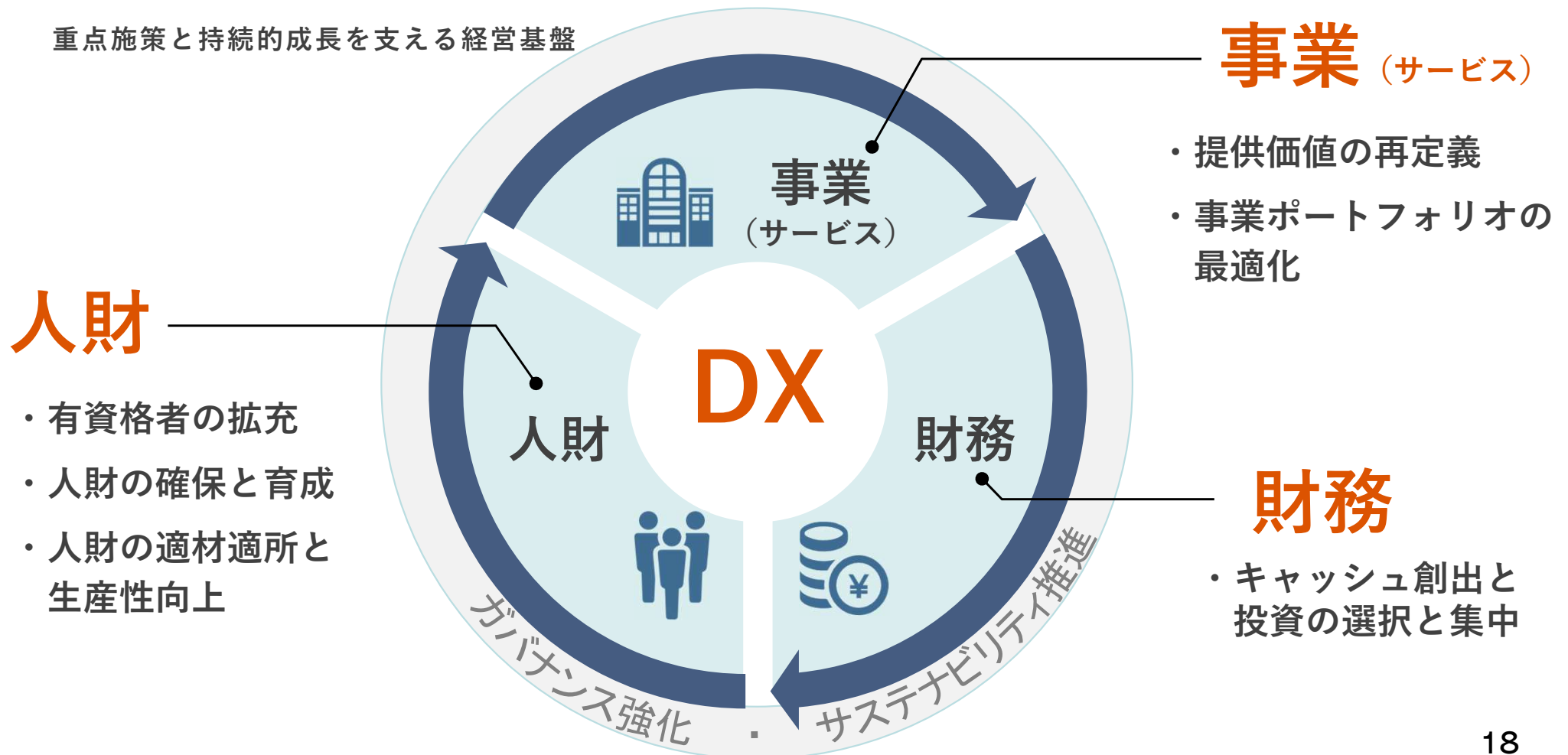
2028年

**40%**

2026年～2028年は「飛躍のための土台作りフェーズ」。DXを共通基盤として、事業・財務・人財の各施策を連動させ、持続的な成長基盤を構築する。



重点施策と持続的成長を支える経営基盤



中計初年度の上半期は、主要施策の着手・体制整備を中心に進捗。  
下半期以降は具体的な成果につなげる実行フェーズへ移行。

| 重点領域 | 2026年度施策                  | 上半期進捗                                                                                               | 下半期以降の予定                                                                                   |
|------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業   | 重点事業の拡大<br>ポートフォリオの最適化    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連結子会社の全株式譲渡を実行</li> <li>・ポートフォリオの最適化を推進</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点案件の確実な受注・施工・引渡</li> </ul>                        |
| 財務   | 財務健全性の向上<br>株主還元の実行       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期売掛債権の解消を実現</li> <li>・中間配当を実施</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュ創出力・資本効率の向上</li> <li>・成長投資と株主還元の両立</li> </ul> |
| 人財   | 有資格者採用・育成<br>適材適所・制度整備    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リテンションプランとして譲渡制限付株式の発行を実施</li> <li>・採用・研修施策を継続推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工対応力と生産性向上</li> <li>・人員KPIの継続管理</li> </ul>        |
| DX   | 基幹システム・CDE<br>データ基盤の整備（※） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・要件定義完了</li> <li>・業務整理に着手済み、計画通り進行</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2027年実装に向けた設計</li> <li>・経営データの可視化</li> </ul>       |

※CDE（Common Data Environment）：プロジェクトに関わるあらゆるデータ（図面、写真など）を一つの場所に集約し、関係者全員で最新情報を共有できるデジタル基盤のこと。

2026年7月1日付で組織体制を再編。分散していた機能を本部主導の一元管理体制へ移行し、事業運営の効率化と実行力強化を推進。



#### 新体制による主な効果(下半期以降に寄与する要因)



営業力の強化



工事・設計体制の標準化



業務フローの効率化



ガバナンス体制の強化



持続的な成長基盤の構築

下半期以降、新体制の定着を進め、営業・施工・管理各プロセスの標準化と効率化を通じて、中期経営計画の実行力向上につなげる。

※本組織変更は株式会社ラックランド単体を対象としています。

中期経営計画に基づくポートフォリオ最適化を推進。

2026年3月にエースセンター、7月にマッハ機器の株式譲渡を実行。

成長領域と人財投資への経営資源配分を実行するため、連結子会社2社の全株式を譲渡

|       | エースセンター株式会社                            | マッハ機器株式会社           |
|-------|----------------------------------------|---------------------|
| 事業内容  | 設備管理・清掃管理・施設管理                         | 厨房機器の設計・開発・製造・販売・保守 |
| 譲渡価格  | 335百万円                                 | 373百万円              |
| 譲渡実行日 | 2026年3月27日                             | 2026年7月31日          |
| 位置づけ  | 経営資源の効果的運用と譲渡先グループでの更なる成長および企業価値の更なる向上 |                     |

※2026年6月30日以降の進捗を含みます。

マッハ機器株式会社の株式譲渡は2026年7月31日に実行しています。

特定取引先に対する長期売掛債権を債務保証会社へ譲渡。将来の回収不確実性を低減、財務健全性を改善。

#### ■長期売掛債権の譲渡概要

| 項目     | 内容                |
|--------|-------------------|
| 対象債権   | 特定取引先1社に対する長期売掛債権 |
| 債権残高   | 1,472百万円          |
| 譲渡金額   | 869百万円            |
| 譲渡先    | 当該取引先の債務保証会社      |
| 契約・譲渡日 | 2026年6月30日        |

#### 本件による財務上の効果

##### ①回収不確実性の低減

長期にわたる回収リスクを切り離し、将来の追加的な信用リスクを低減。

##### ②B/S上の懸念事項を整理

過去から継続していた長期売掛債権を整理し、財務基盤の透明性を向上。

##### ③経営資源の効率化

債権回収管理に伴う継続的な管理負担を軽減し、本業や成長投資へ経営資源を集中。

2025年12月期

貸倒引当金繰入額599百万円を特別損失として計上



2026年上半期

約定に基づく回収を継続



2026年6月30日

残存する長期売掛債権を当該取引先の債務保証会社へ譲渡

中核人財への中長期インセンティブとして、従業員向けRS制度を導入。  
(2026年6月25日に割当て)

#### 本RS制度 概要

対象者

当社の使用人  
188名

発行株式数

普通株式  
158,900株

譲渡制限期間

2026/6/25  
～ 2029/6/24

#### 制度導入の狙い

- ・ 人財の定着・エンゲージメント向上を通じ、事業基盤を強化
- ・ 中長期的な企業価値向上に向けたインセンティブを付与
- ・ 株主の皆様との一層の価値共有を推進

本制度の新株式発行による希薄化の規模は、2026年5月14日現在の発行済株式総数に対し1.41%。

今後、定着率、有資格者数、エンゲージメント等の人財KPIを通じ、制度効果を継続的に検証

※取締役に対しても2026年5月25日にRSを割当てました。

【中期経営計画方針】 ※2026年2月公表済み

社会への貢献と事業成長を両立するため、重要性評価に基づき重点課題を特定し、サステナビリティ経営を推進する。



2026年4月

### 「SDGsプロジェクト」始動

サステナビリティ委員会の設置準備、重点課題（マテリアリティ）の検討、社内への情報浸透等

実施済み

2026年8月

### 「サステナビリティ委員会」設置

全社横断的かつ体系的な推進体制を構築

2026年9月

### コーポレートサイト「サステナビリティ」ページ公開（予定）

重点課題・推進体制等サステナビリティ経営の概要を掲載

2026年12月

### 「サステナビリティレポート（第1弾）」公表（予定）

KPIの実績・進捗を体系的に開示

今後の予定（2026年12月期）

委員会の設置により推進体制の整備は完了。今後は**情報開示と重点課題の実行**を継続的に推進する。

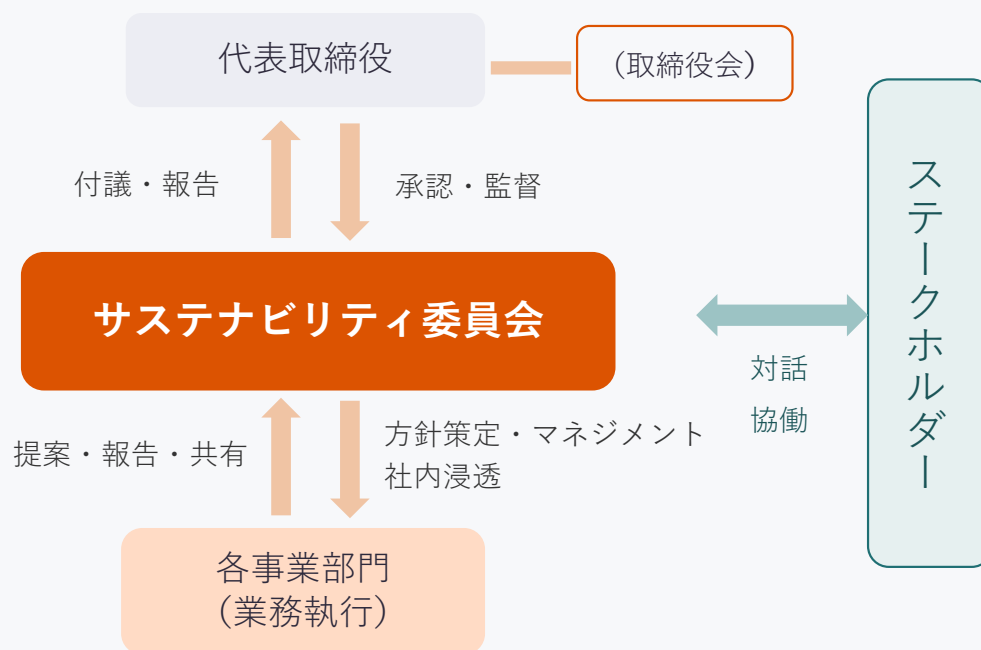
## 目指す姿 | 持続可能な社会の実現と企業価値向上の両立

### サステナビリティ基本方針

企業活動のあらゆる場面で「**透明性**」と「**誠実さ**」を大切にし、商空間の設計・施工で培った技術力と現場力を活かして、持続可能な社会に貢献する**空間価値創造企業**を目指します。

重点課題（マテリアリティ）を特定し、重要業績評価指標（KPI）により課題解決への進捗を管理・改善することで中長期的な企業価値を向上させ、すべてのステークホルダーから信頼される企業であり続けます。

### サステナビリティ推進体制



### サステナビリティ委員会の役割

1. サステナビリティ基本方針の策定及び改定
2. 重点課題（マテリアリティ）の特定及び改定
3. 重点課題（マテリアリティ）に関する具体的施策の立案及び改定
4. 重要業績評価指標（KPI）の設定、進捗状況のモニタリング及び改善提案
5. 重点課題（マテリアリティ）に係る取り組み状況及びその結果の評価
6. 上記並びにサステナビリティ活動全般についての取締役会への報告及び社内外への発信

- ・ 代表取締役直轄の組織とすることで、意思決定と経営判断への反映を迅速化
- ・ 経営層と一体となって事業部門を横断し、重点課題（マテリアリティ）を網羅的に把握

※ステークホルダー：株主、顧客、協力会社、地域社会、金融機関等

## 3つの観点【価値創出・社会対応・経営基盤（ガバナンス）】から 5つの重点課題（マテリアリティ）を特定

### 3つの観点（マテリアリティ特定の方法）

#### 価値創出

事業を通じて生み出す価値

E(環境)

S(社会)

#### 社会対応

社会・環境の要請に応える

S(社会)

E(環境)

#### 経営基盤（ガバナンス）

価値創出と社会対応を支える土台

G(ガバナンス)

### 重点課題（マテリアリティ）と対応するSDGs目標

※現時点でKPI化が可能なものを記載

| 重点課題（マテリアリティ）                | 主なKPI（例）                                                                                                       | 対応するSDGs目標                                                                                          |                                                                                                  |                                                                                                  |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>A. 人財の確保・育成と働きやすい環境整備</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>産休・育休取得率</li> <li>外国人従業員比率</li> <li>主要資格合格率（建築関連資格）</li> </ul>          |  ジェンダー平等を実現しよう   |  働きがいも経済成長も   |  人や国の不平等をなくそう |
| <b>B. 安全・品質の確保と提供価値の向上</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>現場事故件数</li> <li>安全・品質勉強会実施回数</li> </ul>                                 |  住み続けられるまちづくりを  |  つくる責任 つかう責任 |                                                                                                  |
| <b>C. 環境配慮型事業の推進と環境負荷低減</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量</li> <li>廃棄物分別率</li> </ul>                                       |  気候変動に具体的な対策を  |                                                                                                  |                                                                                                  |
| <b>D. 地域社会とつながる空間価値の創出</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域関連プロジェクト件数</li> <li>ボランティア参加率</li> </ul>                              |  住み続けられるまちづくりを |                                                                                                  |                                                                                                  |
| <b>E. 持続的成長を支える経営基盤の強化</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス研修実施回数</li> <li>ハラスメント研修実施回数</li> <li>各研修後の理解度テスト回答率</li> </ul> |  平和と公正をすべての人に  |                                                                                                  |                                                                                                  |

※ 重要業績評価指標（KPI）や取り組み状況等の詳細は、2026年12月公表予定の「サステナビリティレポート」等にてお知らせします。

上半期に整備した事業・財務・人財・DXの基盤を活かし、下半期は受注・施工・収益性の確保と、2027年度以降の成長基盤づくりを並行して進める。

|   |            |                          |                                                 |
|---|------------|--------------------------|-------------------------------------------------|
| 1 | 通期目標<br>達成 | 重点案件の受注・施工・<br>引渡しの確実な実行 | 新規顧客・新規案件の開拓／休眠顧客の掘り起こし／入札・受注戦略の強化／工程・採算管理の徹底   |
| 2 | 事業         | 重点事業の拡大と事業運営効率の向上        | 案件・人員配置の最適化を進め、施工キャパシティと稼働率を高めながら、重点事業の拡大につなげる。 |
| 3 | 財務         | キャッシュ創出力の強化と成長投資・株主還元の両立 | 財務健全性を維持しながら、キャッシュ創出力を高め、成長投資と株主還元を計画的に実行する。    |
| 4 | 人財         | 人財確保・育成と最適配置による施工対応力向上   | 施工対応力と現場マネジメント力を強化し、受注余力と品質を高める。                |
| 5 | DX         | 基幹システム・データ基盤整備の具体化       | 業務・データ・管理指標を整理し、2027年以降の実装に向けた土台を固める。           |

下半期は、重点案件の売上化と採算管理を最優先に、新体制・人財・DX施策の実行を加速し、通期計画の達成と2027年度以降の成長基盤構築を両立する。

# 4

## 制作事例



## 4-1. 制作事例

LUCKLAND CO., LTD.

### 角上魚類 狭山店

専門店



施 主：角上魚類ホールディングス株式会社

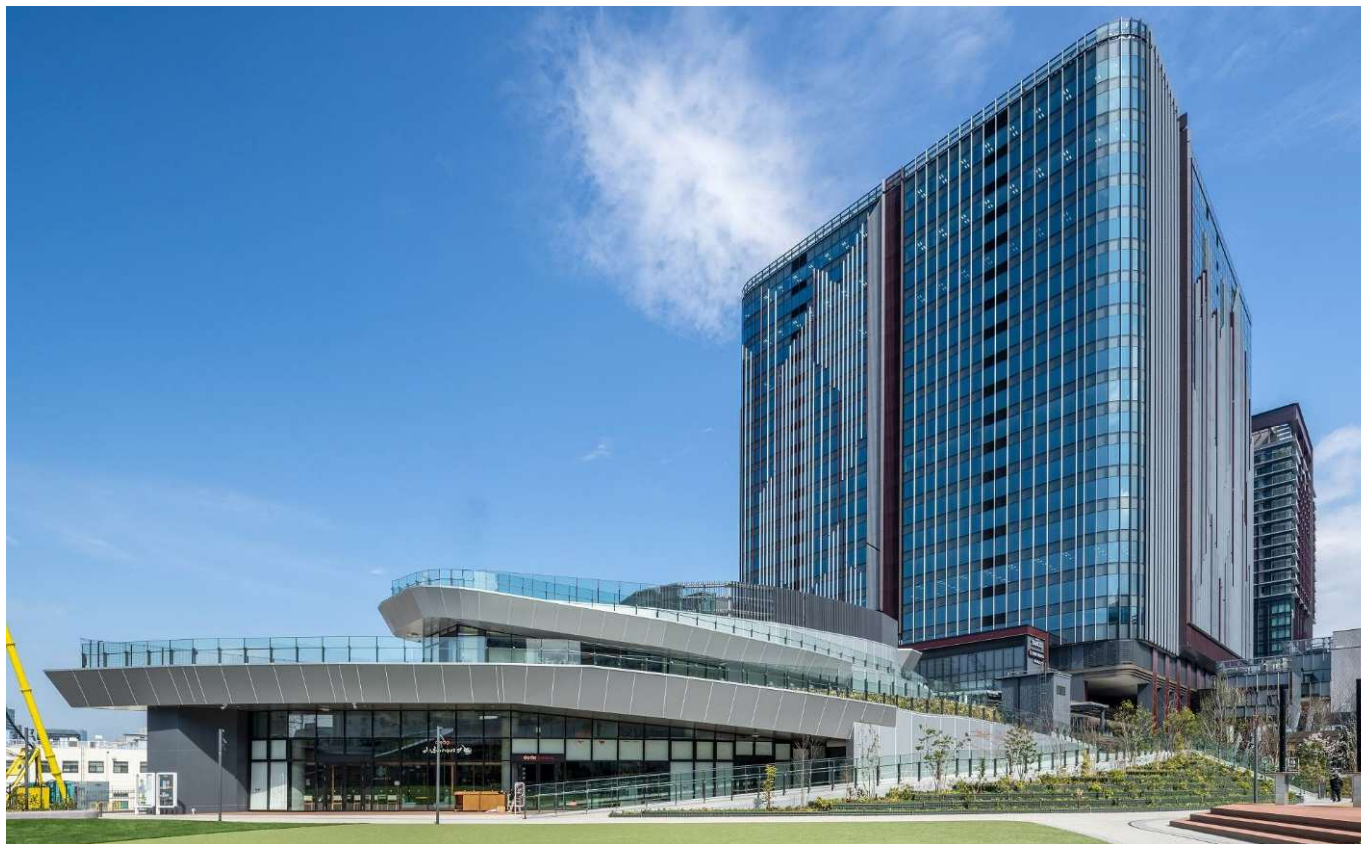
工 事 内 容：新店工事

業 務 範 囲：施工（建築・設備）

所 在 地：埼玉県狭山市新狭山

新潟・関東エリアの大型鮮魚専門店チェーンの新築案件。行政協議から設計・施工をワンストップで当社が担い、コスト・工期を総合的にコントロールできる体制が評価されての受注。太陽光パネルの設置や駐車場緑化など、環境負荷低減にも配慮した店舗づくりに対応。

# OIMACHI TRACKS



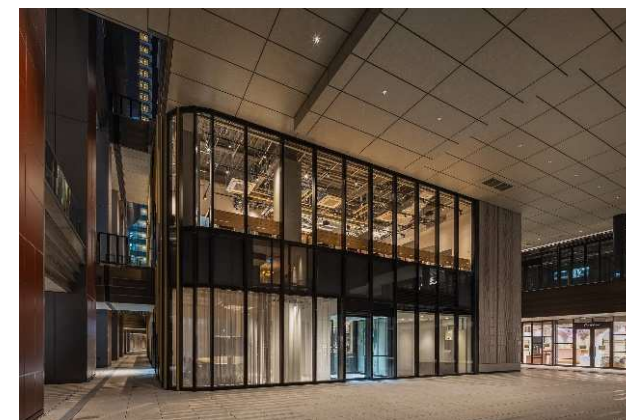
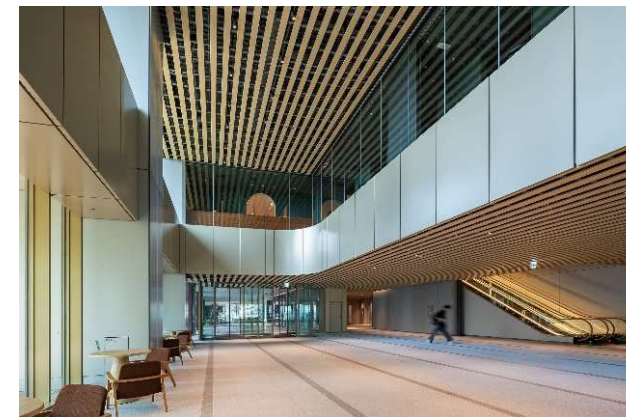
**施主：株式会社 竹中工務店**

**工事内容：空調・換気設備工事**

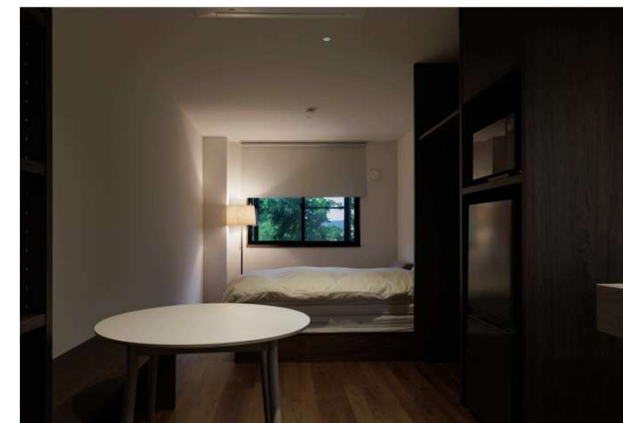
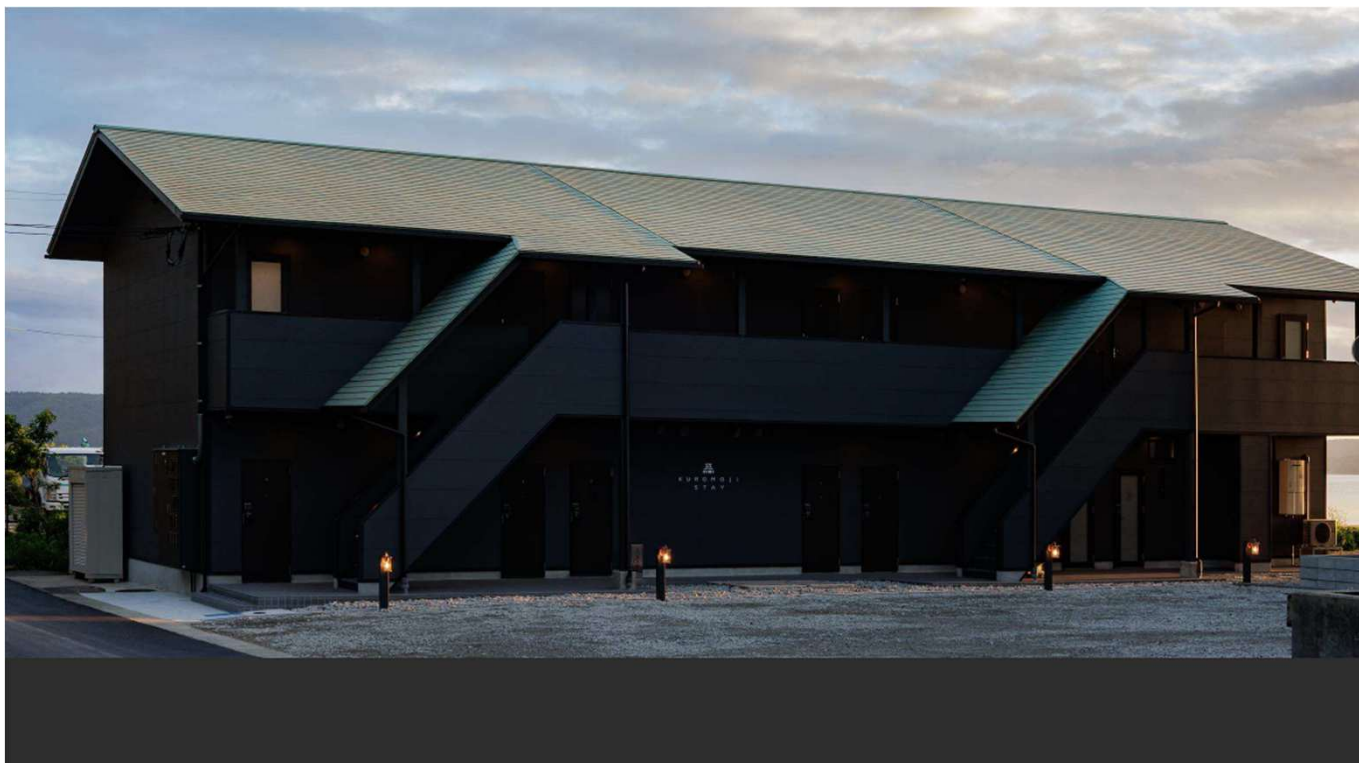
**業務範囲：施工（設備）**

**所在地：東京都品川区広町**

JR東日本が事業を手掛ける「OIMACHI TRACKS」における空調・換気設備工事の一部を担当。過去の施工品質・工程管理・アフターフォロー等の総合力が評価され受注。施工方法の合理化やVE提案によりコスト管理と品質確保を両立。本プロジェクトは、大井町駅周辺において商業施設、オフィス、ホテル、レジデンス、広場等を一体的に整備し、歴史を継承しながら地域活性化を推進する開発事業。災害時の受入れ機能も備え、地域防災への貢献が期待されている。



### 和倉温泉多田屋 くろもじステイ



施主：有限会社白崎シーサイドホテル

工事内容：社員寮改修工事

業務範囲：施工（建築・設備・内装）

所在地：石川県七尾市奥原町

令和6年能登半島地震の復興を支える案件。震災直後から補助金申請を支援し、本館復旧に先立ち、近接する社員寮のフルリノベーション工事を特命で受注。観光庁への「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」の申請を並行しながら、社員寮から宿泊施設基準へ再構築する用途変更の技術力を発揮し、2026年1月～5月の短工期で完工。

### ぴよりんvillage JR名古屋駅

飲食店



施 主：ジェイアール東海フードサービス株式会社

工 事 内 容：内装設備工事

業 務 範 囲：設計・施工（内装・設備）

所 在 地：愛知県名古屋市中村区名駅

国内屈指の乗降客数を誇る名古屋駅のコンコース内に、約164㎡・59席のコンセプトカフェ&ギフトショップを実現。デザインコンペで選出され、内装・設備の設計および施工を一貫して担当。難易度の高い駅構内特有の設備制約を克服しながら、名古屋発の人気スイーツ「ぴよりん」の世界観を体感できるシンボリックな空間を創出。

### 東急ハーヴェストクラブ 南紀田辺 THE DINING 「IRODORI」

ホテル



施 主：東急不動産株式会社

工 事 内 容：内装工事・レストランフロアリニューアル

業 務 範 囲：施工（設備・内装）

所 在 地：和歌山県田辺市新庄町

会員制リゾートホテルならではの高級感と、コストパフォーマンスおよび短工期への要望に対し、内装から電気・空調・防災設備までを一括で担い、当社の総合力を発揮。VE提案によるコスト削減を実現しつつ、2026年1月下旬～4月上旬という短工期で完工。地元和歌山県産材を採用することにより地域林業・木材産業への支援にも貢献。

## Appendix

### 参考資料（Appendix）

- ・ 連結業績情報
- ・ 連結貸借対照表
- ・ 四半期業績データ推移（連結実績）

## 連結業績情報

(百万円)

|                 | 2025年12月期<br>第2四半期 | 2026年12月期<br>第2四半期 | 増減率    |
|-----------------|--------------------|--------------------|--------|
| 売上高             | 25,882             | 22,657             | △12.5% |
| 売上原価            | 21,526             | 19,233             | △10.7% |
| 売上総利益           | 4,355              | 3,423              | △21.4% |
| 販売費及び一般管理費      | 2,717              | 2,599              | △4.3%  |
| 営業利益            | 1,637              | 823                | △49.7% |
| 経常利益            | 1,586              | 879                | △44.5% |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 961                | 665                | △30.7% |

| 事業分野別売上高       | 2025年12月期<br>第2四半期 | 2026年12月期<br>第2四半期 | 増減率    |
|----------------|--------------------|--------------------|--------|
| 店舗施設の制作事業      | 16,303             | 14,006             | △14.1% |
| 商業施設の制作事業      | 4,470              | 3,547              | △20.7% |
| 食品工場・物流倉庫の制作事業 | 1,177              | 850                | △27.8% |
| メンテナンス事業       | 1,392              | 1,150              | △17.4% |
| 環境領域事業         | 40                 | 33                 | △15.8% |
| 建築事業           | 2,497              | 3,068              | +22.8% |
| 合計             | 25,882             | 22,657             | △12.5% |

## 連結貸借対照表

(百万円)

|            | 2025年12月期末     | 2026年12月期第2四半期 | 増減     |
|------------|----------------|----------------|--------|
| 流動資産       | 23,278         | 20,080         | △3,198 |
| 現金及び預金     | 11,521         | 11,225         | △296   |
| 売上債権       | 8,111          | 5,412          | △2,698 |
| その他流動資産    | 3,646          | 3,442          | △203   |
| 固定資産       | 6,461          | 5,741          | △720   |
| (うち 長期売掛金) | (貸倒引当金控除後) 922 | -              | △922   |
| 資産 合計      | 29,740         | 25,822         | △3,918 |
| 流動負債       | 15,644         | 11,030         | △4,614 |
| 仕入債務       | 8,234          | 5,065          | △3,169 |
| その他流動負債    | 7,408          | 5,963          | △1,445 |
| 固定負債       | 984            | 954            | △29    |
| 負債 合計      | 16,628         | 11,984         | △4,644 |
| (うち 有利子負債) | 2,324          | 2,174          | △150   |
| 株主資本       | 13,166         | 13,860         | +694   |
| 資本金        | 4,742          | 4,870          | +127   |
| 資本剰余金      | 4,263          | 4,391          | +127   |
| 利益剰余金      | 4,162          | 4,600          | +438   |
| その他        | △54            | △22            | +32    |
| 純資産 合計     | 13,111         | 13,837         | +725   |

## 四半期業績データ推移（連結実績）

（百万円）

|                      | 2025年12月期 |        |        |        | 2026年12月期 |        |    |    |
|----------------------|-----------|--------|--------|--------|-----------|--------|----|----|
|                      | 1Q        | 2Q     | 3Q     | 4Q     | 1Q        | 2Q     | 3Q | 4Q |
| 売上高                  | 11,744    | 14,138 | 15,617 | 15,073 | 10,692    | 11,965 |    |    |
| 売上総利益                | 1,966     | 2,389  | 3,277  | 2,116  | 1,965     | 1,458  |    |    |
| 売上総利益率               | 16.7%     | 16.9%  | 21.0%  | 14.0%  | 18.4%     | 12.2%  |    |    |
| 営業利益                 | 672       | 965    | 1,899  | 495    | 683       | 140    |    |    |
| 営業利益率                | 5.7%      | 6.8%   | 12.2%  | 3.3%   | 6.4%      | 1.2%   |    |    |
| 経常利益                 | 600       | 985    | 1,951  | 614    | 699       | 180    |    |    |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 472       | 488    | 1,345  | △225   | 389       | 276    |    |    |
| 純利益率                 | 4.0%      | 3.4%   | 8.6%   | △1.5%  | 3.6%      | 2.3%   |    |    |

※純利益率は、親会社株主に帰属する四半期純利益を売上高で除して算出。

## 免責事項

- 本資料に含まれる将来の業績予想や見通しに関する記述は、現時点において当社経営陣が入手している情報および合理的であると判断した一定の前提（仮定）に基づいて作成されたものです。
- これらの記述には、経済情勢や市場環境の変化、事業運営上のさまざまな要因によって実際の業績や結果が大きく異なる可能性が内在しています。したがって、将来の業績や成果を保証するものではありません。
- また、本資料に記載された将来見通しは、必要に応じて変更・修正される可能性があるものの、新たな情報等に基づいて都度更新・開示する義務を負うものではありません。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、無断での引用・複製・転載等をご遠慮ください。

～IRに関するお問い合わせ～

株式会社ラックランド

コーポレート統括本部 経営企画部 経営企画課

<https://www.luckland.co.jp/contact/index.html>